

江南市子ども・子育て支援推進協議会会議録要旨

1 日 時 平成28年7月28日(木) 午後1時30分～2時55分

2 場 所 江南市役所 第3委員会室

3 出席者

委 員 10名

伊藤由紀 今井敦六 兼岩國太 沓名珠子 笹瀬ひと美

佐々有三 柴田広美 野木森千恵子 松尾昌之 陸浦歳之

事務局 7名

4 次 第

1. 健康福祉部長あいさつ

2. 議題

(1) 次世代育成支援行動計画(後期計画)の評価について 【資料1】

(2) 江南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 【資料2】

(会長)

それでは、議題の(1)「次世代育成支援行動計画の評価について」、議題(2)「江南市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について」を一括で事務局から説明をお願いします。

【事務局が資料1及び資料2により説明】

【質疑】

(委員)

子ども会活動について、平成20年度には、66団体、会員数3,804人でありましたが、平成26年度には、45団体、会員数2,742人と減少しています。また、地区によっては、子ども会が無くなっている地区もあるという現実がありますが、どの様に考えていますか。

(事務局説明)

こちらに記載してあります団体数は、地域の子ども会の上部団体である江南市子ども会連絡協議会に加盟している団体数です。江南市子ども会連絡協議会への加盟は年々減少傾向であり、歯止めがかからない状況でありますので、市としても大きな課題であると考えています。

江南市子ども会連絡協議会に加盟している団体が減少している状況ではありますが、

子ども会活動自体がなくなっているわけではなく、地区ごとの子ども会活動は、継続して行われているものと認識しております。江南市子ども会連絡協議会に加盟することで役員活動を行うこと等が保護者の方に大きな負担となっており、それが加盟団体減少の大きな要因となっていると考えられます。江南市子ども会連絡協議会の役員の方とどういった形で活動を支援していけるかを相談しながら、進めていきたいと考えています。

(委員)

上部団体は、何かしらの必要があるため設置されているものなので、加盟団体の増加を図るためにどうしたら良いかについてももしっかり考えていく必要があると思います。また、ここに記載されている計画の目標値の推進と継続の区別についても確認し、整理すると良いと思います。

(委員)

(2) ①の心の教室相談員について最近では、カウンセラーを配置しているところもあるようですが、江南市では具体的にどのような相談員を置いていますか。また、相談件数などの実施状況について教えてください。

(委員)

相談員は、全校に配置していただいております。友達、先生にも話しにくいことなどを学校の教室とは少し離れた場所で相談ができるようにしています。相談件数、内容については、教育課に毎月報告がされています。相談数は多いと聞いています。

また、スクールカウンセラーも、各中学校に配置され、小学校も3校ごとに1人ほど配置がされています。まだまだ十分ではありませんが、現場では、大いに機能しています。保護者の方が直接先生等に話しにくい悩みなどを話されることもあります。

(事務局説明)

平成27年度の相談件数は小学校が1080件、中学校は795件です。

(委員)

他市でもお母さん講座を行っていますが、幼稚園・保育園から小学校に行ったとたんに悩みを相談できる場が無くなったと言われる方が多くみえます。小学校の低学年の児童の母が、座談会のような場所で、話し合いができるような機会を設ける必要があるのではないかと感じています。

(委員)

江南市でも、子育て支援センター、保育園などで様々な取り組みをされているかと思いますが、どの様な実態となっていますか。

(事務局説明)

就学前の児童と保護者に対しての支援としましては、子育て支援課において、子育て支援センター、保育園などで取り組みを実施しています。

小学校就学後のケアについては、教育課において実施することとしています。

(委員)

幼稚園、保育園では、登園・降園時にお迎えがあり、その時に保護者が先生とお話ができたりして、サポートができる機会が多いのですが、小学校では、集団登下校なので、そういったことは難しく、横のつながりが薄くなっていることが、話し合いができるような機会が無いと言われる一番の要因ではないかと思います。

学校では、PTAや地域での活動があり、なるべく保護者同士のつながりをもっていこうとはしていますが、なかなか上手くいっていないのが現状です。保護者も仕事をされていて、学校任せの部分が多いことも一つの要因であると思います。いじめや不登校などの問題に関しては、相談できる場もあり対策を行っていますが、毎日の活動の中で保護者の方がつながるような組織を作ることは、現実的には難しいかと思います。また、江南市内の中学校では、不登校で悩む母が、学校で自主的に作られた組織もあり、悩みをもつ保護者への紹介も行っています。

(委員)

母親が専門家の力を借りて、問題を解決するのではなくて、同じような境遇の人たちが集まってお互いに話し合いを重ねて、力を貸し合って、連携して自分たちの問題を解決していくことは、大切なことであると思います。子どもが小学校の段階でのそのような組織づくりを強化していくことが必要であると考えます。

(委員)

児童館にも、毎日送り迎えがあり、父親や母親に会いますので、悩み事があるとその際に相談を行うことがあります。

(委員)

児童館は、昔と違い子どもたちが安全に遊べるような管理をしていけばいいというものではなく、色々な家庭環境の子どもたちが利用するので、現在は、様々なケアが必要な施設であると思います。色々ご苦労があるかと思いますがいかがでしょうか。

(委員)

児童館では、暴れたりするような子どもなどもおり、様々な子どもを対応しています。母親と情報交換を密に対応していますが、専門家ではないため、その対応が専門的にみるとベストなものであるか分からず、この対応で本当に良いのかなという気持ちになることがあります。

(委員)

2 (1) ②の学童保育について、現在、布袋北の小学校区の学童保育では、すごく狭い部屋に50人以上入っての実施となっていますが、どのくらいの利用になると、部屋を増やしたり、実施場所の拡大がされるのでしょうか。

(事務局説明)

布袋北については、平成27年度から小学校4年生まで受け入れができています。施設になりますが、現時点では、市内にはまだ小学校3年生までしか受け入れができていない施設もありますので、そちらを優先して施設整備を進めてまいります。その整備が終了した後に、現状に不足がある校区についての整備を計画をもって進めてまいります。

(委員)

低年齢児保育の受け入れについての問題は、施設等の整備が必要な問題であるのか、それとも保育士が採用しにくいといったような人的なことが問題であるのか、どのような事が問題となっているのでしょうか。

(事務局説明)

待機児童が発生している一番大きな要因は、保育士の不足であると考えています。

(委員)

3 (1) ②の「子ども110番の家」など緊急避難場所の設置促進についてですが、平成20年度に1,020か所設置されていたのが、平成26年度実施状況では、958か所に減っています。減少している理由について分かりますか。

(事務局説明)

商店街の店舗数の減少が影響しているのではないかと考えられます。民家よりも店舗の方が、子どもが入りやすい状況があるかと思いますが、一つは、そういった店舗の減少が影響しているのではないかと思います。

(委員)

子育て支援センターの利用について、父親の育児参加の影響などもあるかもしれませんが、子どもの数より母親、父親の方が多数の利用があるように思いますが、どのような状況でしょうか。

(事務局説明)

子どもと母親での利用、子どもと父親での利用、子どもと母親と父親3人での利用といった、子どもとの関係別の利用状況については、把握しておりません。

(委員)

第3子育て支援センターでは、土曜日は、母親、父親と子どもでの利用、平日は、祖母、母親、子ども3人での利用が多くなってきていると感じています。

(委員)

第3子育て支援センターでは、複数の大人が利用して、そういった親同士による交流も行なわれているのでしょうか。

(委員)

なかなか交流の場がないので、掲示板を活用するなどして、親同士の横のつながりを持てるような支援をしていますが、これをやりすぎてしまうと、親たちが親同士の交流に集中しすぎてしまって、子どもから目を離してしまうこともあるので、実施にあたっては、難しいものを感じています。

(委員)

これは、子育て支援センターのジレンマかもしれません。子育て支援センターは、親子の関係を作る、調整する、親子が家庭でも楽しく遊べるようにするために色々な事を覚えてもらうためのものであり、その一方で孤立して近所に相談相手がいない親が、話をできる相手を見つけて、交流することで互いに力をつけていくためのものでもあるので、目的の性質が相反しており、それが課題になっているのかもしれません。

これまでの話しを聞いていますと、父親の育児参加により、父親の利用が多くなっているのは事実かもしれません。

(委員)

なかなか子離れができず子をあまやかすすぎる親がみえる。PTAは義務ではないので、意味のないことは、やりたくないと言われる保護者もあり、保育園、学校が集団生活を学ぶ場所ということが理解できない親がみえます。資料1の事業にはありませんが、子が幼稚園・保育園の段階から、その様な親に対する教育を実施していく必要があると思います。

(委員)

この問題は、市のいろいろな課において、対応する必要があるものだと思います。親自身が、心の病により子に依存しているケースもあります。子どもは親子関係に大きな影響を受けるので、親が安定すると子が安定する、親が変われば子も変わるということがあります。生涯学習においても講座を開いたり、いろんな機会をとらえて対策を進めておられるとは思いますが、関係する課が、横の連携を持って、情報を共有し、対策にどこか空いている部分が無いかを確認する体制づくりが必要であると思います。

(委員)

子育て教室、子育て支援センターの事業の中にもその講座の中に親に対する教育の内容が盛り込まれているものがあります。

(委員)

子育て教室、子育て支援センターの講座に参加できるような方は、しっかりとした教育ができる方だと思います。そうではない方に対して、どのように対処していったら良いかを考えていく必要があると思います。

(委員)

そのような方への対応は大きな課題であると感じています。難しい現状ではありますが、児童館などへ来られた保護者の方への地道な声かけなど小さな事の積み重ねをしていくしかないと思います。

(委員)

学童保育の帰りに子どもがその日に起きた子ども同士のけんかについて、母親に話そうとしていましたが、母親は、そんな話はいいので、早く帰ろう。と言っている場面を見かけました。この様な子どもの投げかけを受け入れることができない方がみえることに対して、私はショックを受けました。誰かがそんな子どもの事に気づいて、親に子どもの話を聞いてあげることの大切さを伝えられるようなシステムがあるともっと良くなるのではないかと思います。

(委員)

母親になりたての幼児期、児童期の子の母親に子どもの話しに聞く耳をもつことの大切さを発信していくことが、子どもの話しに聞く耳をもつことができる母親を育てるために大切な事だと思います。

(委員)

子育て支援センターに父親が参加することで、父親への育児の理解が深められ、父親から母親にその理解した事が伝わっていくことも考えられます。親に対する教育の方法としては、とても有効ではないかと思います。

(委員)

子どもにとって良い父親、母親となることを伝える事も必要ですが、それよりも子育ての楽しさを伝えることが大切ではないかと思います。親は子どもが笑えば、幸せな気持ちになると思います。虐待についても言えるかもしれませんが、子どもが泣くので、怒れて手が出てしまうのであって、笑っている子に手を出すことはないのではないかと思います。子育てがいかに生きがいがあって楽しいものかを伝えていくことが大切だと思います。

(委員)

4 (2) の第三子保育料無料化事業について、一宮市では、市独自の事業として、9月から3歳以上の幼児も対象とするという話がありますので、今後の参考にしていただけたらと思います。

(委員)

4 ページ (7) の病児・病後児保育事業について、実際にはニーズが無いのではないかと思います、具体方策に検討中とあります。これは、何を意味しているのでしょうか。

(事務局説明)

現在、江南市内に病児・病後児を受け入れる施設は存在しませんので、他市町村にある施設を利用した時の利用料についての助成を行っています。したがって、事業計画の中でも、早急な施設整備に努めていくこととしており、平成27年度から28年度にかけて、実施に向けての具体的な方策を検討してまいりましたが、実施には至らず、これまで検討してきた方策については、白紙となってしまいました。再度、早急な実施に向けての具体策の検討をしていかなければならないと感じております。

(委員)

実施の方向性としては、江南市内の医療機関との連携を考えていますか。

(事務局説明)

医療機関併設型が望ましいと考えていますが、相手が医療機関であるため調整が進まなければ実施はできません。よって、現実的にはそれ以外の方法も検討していく必要があると考えています。

【議題は終了】

【協議会終了】